

施策番号	1704		
施策名	健康危機に対する安全・安心の確保		
概要	新型インフルエンザをはじめとする感染症や食中毒等の健康危機事案に対し、市内の医療機関等との連携により、迅速かつ的確な予防と蔓延の防止対策を進める。		
担当局・部室	保健福祉局・保健衛生推進室	共管局・部室	
上位政策	17 保健衛生・医療		
施策に関する主な分野別計画等			

施策の評価

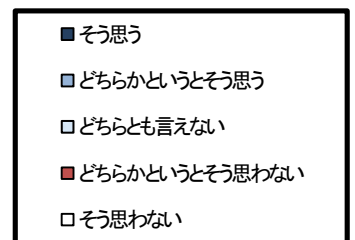
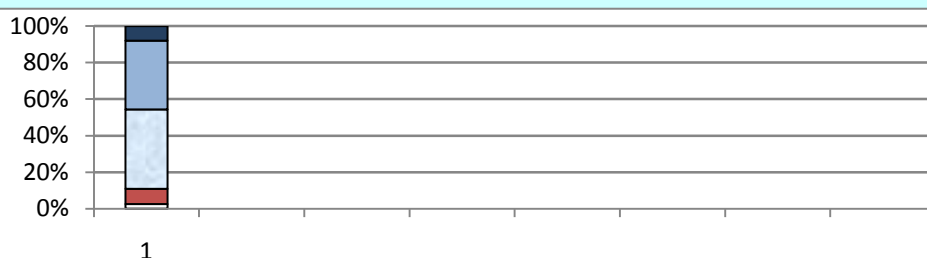
1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1 腸管出血性大腸菌による感染症の発生件数(件)	-	b	37	30	37	118.9%	a	1.00
2 定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数の全国比(%)	-	c	55.2	77.7	41.5	12.8%	e	1.00
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
		b	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 感染症や食中毒等の健康危機に対し、安全と安心が確保されている。	41 8.0%	194 37.7%	224 43.5%	43 8.3%	13 2.5%	515	b	
2 -								
3 -								
4 -								
5 -								
市民生活実感調査総合評価							b	



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					23 年度	B
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	c	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 健康危機に対する安全・安心の確保は、市民生活に密接に関わる施策であることから、市民生活実感調査を重視する。						年度	-
(原因分析) ・みやこ健康・安全ネットや印刷物等による啓発活動を強化した結果、腸管出血性大腸菌による感染症発生件数を、昨年度に比べ大きく減少させることができた。 ・平成23年度は全国的にインフルエンザが流行し、本市でも7年ぶりに警報発令レベルとなった。そのためe評価となった。 ・市民生活実感調査については、平成21年度の新型インフルエンザの流行等によって市民の意識も高まってきていることから、b評価となった。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	予防対策	29,272	29,843	—	保健福祉局
2	結核・感染症発生動向調査	39,176	44,455	普通	保健福祉局
3	性感染症対策	18,820	19,840	普通	保健福祉局
4	O157等腸管出血性大腸菌対策	22,680	26,211	かなり悪い	保健福祉局
5	エイズ対策	46,877	48,904	良い	保健福祉局
6	肝炎ウイルス検査	9,436	12,954	普通	保健福祉局
7	定期結核	66,051	65,668	良い	保健福祉局
8	定期外結核	22,224	25,823	良い	保健福祉局
9	結核対策特別促進事業	24,589	27,040	良い	保健福祉局
10	成人用肺炎球菌ワクチン接種	—	39,943	—	保健福祉局
11	飲料水衛生管理指導	90,264	115,232	良い	保健福祉局
12	建築物衛生(ビル衛生管理)	90,384	114,387	良い	保健福祉局
13	薬物乱用防止啓発事業	4,655	4,278	かなり良い	保健福祉局
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・引き続き、市民や関係団体に対する注意の喚起や、新興感染症等に係る啓発、予防接種の勧奨等に努める。
 ・感染症や食中毒等が実際に生じた際には、市内の医療機関等との連携により迅速・的確な予防と蔓延防止の取組を進める。

施策名	1704	健康危機に対する安全・安心の確保				
指標名	腸管出血性大腸菌による感染症の発生件数（件）					
担当課	保健医療課		連絡先	222-3411		
1 指標の説明						
O111, O157等の腸管出血性大腸菌による感染症発生件数						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
感染症の発生状況を示す指標			算出方法：各年度の発生件数の合計 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	37	30	7件減	37	過去5年間の最低値	118.9%
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		根拠
数値						
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新の数値が a：過去5年間の最低値以下 b：過去5年間の最低値と下中間（最低値と平均値の間）の間 c：過去5年間の下中間と平均値の間 d：過去5年間の平均値と上中間（平均値と最高値の間）の間 e：過去5年間の上中間以上			過去5年間の数値を基に、過去5年間最低値以下をa、平均値以下をcとし、最高値も含めた按分で基準を設定した。 最低値：37件（平成22年度） 平均値：64件 最高値：92件（平成21年度）		23 24 - b a	

指標名	定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数の全国比（%）					
担当課	保健医療課		連絡先	222-3411		
1 指標の説明						
インフルエンザの流行発生状況の指標となる定点当たり報告数の全国比						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
感染症の発生状況を示す指標			算出方法：本市の定点医療機関当たり報告数（年間） / 全国の定点医療機関当たり報告数（全国）			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	55.2	77.7	22.5ポイント増	41.5	過去5年間の最低値	12.8%
	全国順位	中長期目標			備考	
		数値	目標年次	達成度		根拠
数値						
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新の数値が a：過去5年間の最低値以下 b：過去5年間の最低値と下中間（最低値と平均値の間）の間 c：過去5年間の下中間と平均値の間 d：過去5年間の平均値と上中間（平均値と最高値の間）の間 e：過去5年間の上中間以上			過去5年間の数値を基に、過去5年間最低値以下をa、平均値以下をcとし、最高値も含めた按分で基準を設定した。 最低値：41.5%（平成19年度） 平均値：62.2% 最高値：74.3%（平成20年度）		23 24 - c e	

備考
本市の定点医療機関当たり報告数：274.0件（平成23年度）
全国の定点医療機関当たり報告数：352.6件（平成23年度）